

# 活動交通シミュレータを用いた高齢運転者に対する 将来モビリティスタイルの提案による態度変容効果

東京大学大学院 青野貞康

## 高齢運転者問題

- 加齢による運転能力の低下、事故への不安
- ⇨ 運転をやめるとモビリティが大幅に低下?
- = 日常生活の利便性低下、健康への悪影響

いつどのような形で運転をやめるのかは人生の大きな決断

- 高齢者が安心して運転をやめるためには、クルマ中心の生活と比較しても利便性が大きく低下せず、ソフトランディングできる**モビリティスタイル**が選択可能であることが重要

※モビリティスタイル  
= 日常的な移動手段の観点から見たライフスタイル

## 将来モビリティスタイル(MS)

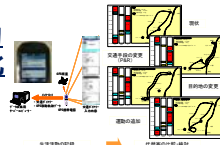
- 運転容易な超小型電気自動車に乗り換える(過渡期として)
- 面的オンデマンドバスサービスを利用する
- 歩いて暮らせるまちに住む・まちづくりを目指す

⇒ MSのニーズ、受容性をどう測る・向上させるか  
: 対象となる方々との**コミュニケーション**による、MSの特性・利便性に対する認知の向上が重要



## 活動交通シミュレータによる将来MSの提案

- まち・くらしの将来像の提案
  - マンガ、ドラマ、VRなどによるイメージの共有
  - 個別の活動交通パターンがどう変化するか具体的な提案 ⇒ **活動交通シミュレータ**
- 活動交通シミュレータとは
  - アクティビティデータ、交通ネットワークデータ、施設情報データ等をもとに**活動交通パターンの仮想代替案**を提案するWebアプリケーション
  - 将来MSのもとで**個人の具体的な外出スケジュールがどう変化するのかがわかる**



## 高齢運転者へ将来MSを提案する活動交通シミュレータ

**クルマ(現状)**

**超小型EV**  
• 小型で小回りのきく超小型EVに乗り換え

**面的ODバス**  
• Door-to-doorの予約制サービス

**歩いて暮らせるまち**  
• 徒歩圏内に生活関連施設が充実

## 実証調査の概要

- 対象地区: 千葉県柏市の戸建て住宅地
  - 1980年代に分譲(1,600世帯、5,000人)
  - 鉄道駅からバスで15~20分
  - 近隣センターの商店街は衰退傾向
- 対象者: 60歳以上、日常的に自動車を運転して外出: 20名
- 調査形式: 活動交通シミュレータを用いたインタビュー
- 調査項目
  - 運転や交通手段に関する意識
  - 現在の運転継続に関する意向(事前)
  - 典型的な外出スケジュール(クルマ)
  - 将来MS別外出スケジュール提案
  - 将来MS実現時の受容性と、運転継続に関する意向(事後)

## 実証調査の結果

**外出活動の特徴**

**運転継続に関する意向(事前⇨将来MS実現時)**

**将来MSの受容性(望ましさ)**

**事前(現状)**  
• できるだけ長く**運転継続**: 8割  
**事後(将来MS実現時)**  
• **運転可能でも他のMS**: 6割

⇒ コミュニケーションの効果  
ニーズの把握、サービスの受容性向上に活用可能